

首都高速道路構造物の大規模更新のあり方に関する調査研究第3回委員会 議事要旨

日時：平成24年6月26日（火）17:00～19:00

場所：イイノホール&カンファレンスセンター Room B1, B2

出席：委員長 涌井 史郎（東京都市大学環境情報学部 教授）
委員 秋池 玲子（ボストンコンサルティンググループ パートナー&マネージング・
ディレクター）
勢山 廣直（（独）日本高速道路保有・債務返済機構 理事長）
藤野 陽三（東京大学大学院工学系研究科 教授）
前川 宏一（東京大学大学院工学系研究科 教授）
真下 英人（（独）土木研究所道路技術研究グループ グループ長）
三木 千壽（東京都市大学総合研究所 教授）
（石田 東生（筑波大学大学院システム情報工学科 教授）は、所用のため欠席）

議事：

1. 首都高速道路における大規模更新の考え方
2. 大規模更新検討区間の抽出手順
3. その他

（主な意見）

- ・切欠部のクラックなど、ここであげられている過去の特異損傷の対策は、通行止めを行わな
いで対処してきた。これは、修繕か、それとも更新なのか。通常修繕、大規模修繕、大規模
更新の定義を再度きちっとする必要がある。
- ・特異損傷の発生箇所を示した図は、過去に発生した箇所を示しているにすぎない。現状分析
だけではなく、将来、どこがどうなるかをセットで検討する必要がある。
- ・通常修繕だけ積み上げた場合どうなるのか、大規模修繕を行なったらどうなるのか、大規模
更新を行ったらどうなるか、など、いくつかのシナリオを作成し、実態との比較をすること
で、構造物を健全に保つための方策を検討できるのではないか。
- ・2050年以降のシナリオを想定するには、機構と会社の関係において、首都高速道路をど
う引き継いでいくのか、はっきりさせておく必要がある。

- ・首都高速道路の現在の制度では、2050年までの投資額も含めて全額償還することと大規模更新は枠の外に置いてある。2050年以降きっちりとした道路として次世代に引き継いでいくために、それまでに何をしておかなければいけないか、という検討が必要ではないか。
- ・プラス100年のターゲットを定める、償還満了時点にどのようなクオリティで引き渡すか等、その姿を描いてから、バックキャスト的に考えて、そのためにいつ、何をすべきかについて、シナリオの代替案をいくつか作成するのがよいのではないか。
- ・大規模更新の基本的な考え方については、更新することを前提としたものになっているが、必要な安全性をコストミニマムで確保するための方策として、大規模修繕や部分的な更新などを含めた整理が必要ではないか。
- ・更新するかどうかは、通行止めにつながるような致命的な損傷があるか、沢山の損傷が発生しメンテナンスコストが高くなるか、サービスレベルが社会的要求と合わなくなったか、という要因に絞り、シンプルに考えた方がよいのではないか。
- ・具体的な事例で、大規模修繕の積み上げがよいのか、大規模更新がよいのか、様々なケースを示す必要があるのではないか。
- ・更新箇所をグループ化することは、良いと思う。ランプ間など、まとまった区間で更新もし修繕もするという方が、1箇所ごと少しずつ直すより効率的である。
- ・トンネル区間についても、早い段階で構造物の損傷状況について、現状整理をしてほしい。
- ・8月中の中間とりまとめにこだわらず、時間をかけて熟度が高まってから、中間とりまとめを行うのがよいのではないか。